

目的 国際婦人年に当り、夫婦の平等と相互協力を家庭生活の家事労働に求め、昨年婦人教師層の調査をした。その際に行った既婚者の夫婦役割分担の調査の結果を、今回は未婚者の家事労働と比較して検討した。

方法 広島市内中学校婦人教員（本務者のみ）を対象に1982年7月12日～31日に調査した。回収率は44.1%（282人）であり、未婚者はその中98人であり、質問紙法による。

結果 本調査は家事労働を、育児・教育・保護・食生活・衣生活・経済生活・住生活・技術・防衛・交際・宗教・聴い・娯楽・話し合い等の機能から、40項目の質問を設定した。特に今回は未婚者対象のため育児・教育の項目は省略した。回答は5段階評価とし、4, 3, 2, 1, 0点と配点した。調査結果は、既婚婦人の平均値は2.73で（かなりよくするに近く）、その夫の平均値は1.57で（ほとんどしないと時々するの中間点）、未婚教師の平均値は1.79で（時々するに近く）あった。それはあたかも、既婚者夫妻の中間に位置するものであった。なお、未婚教師の43%（40人）は、同居家族－親や親族－の協力で家事がこなされ家庭生活が維持されている。この協力者の平均値は3.21で（かなりよくする）有能な同居家族の援助の下に日常の生活をしている女性が多い。それが結婚すると（概して）家事能力の乏しい結婚相手に置換されるので家事労働の負担が増すのが現状である。未婚者の高評価は、食事の片付と洗濯とアイロンかけと布団の揚げ降ろしと部屋の掃除と戸締があり、低評価は家計管理と庭の掃除と家具・器具の修理と近所つきあいと先祖の祭礼等である。